

Takebe jinja

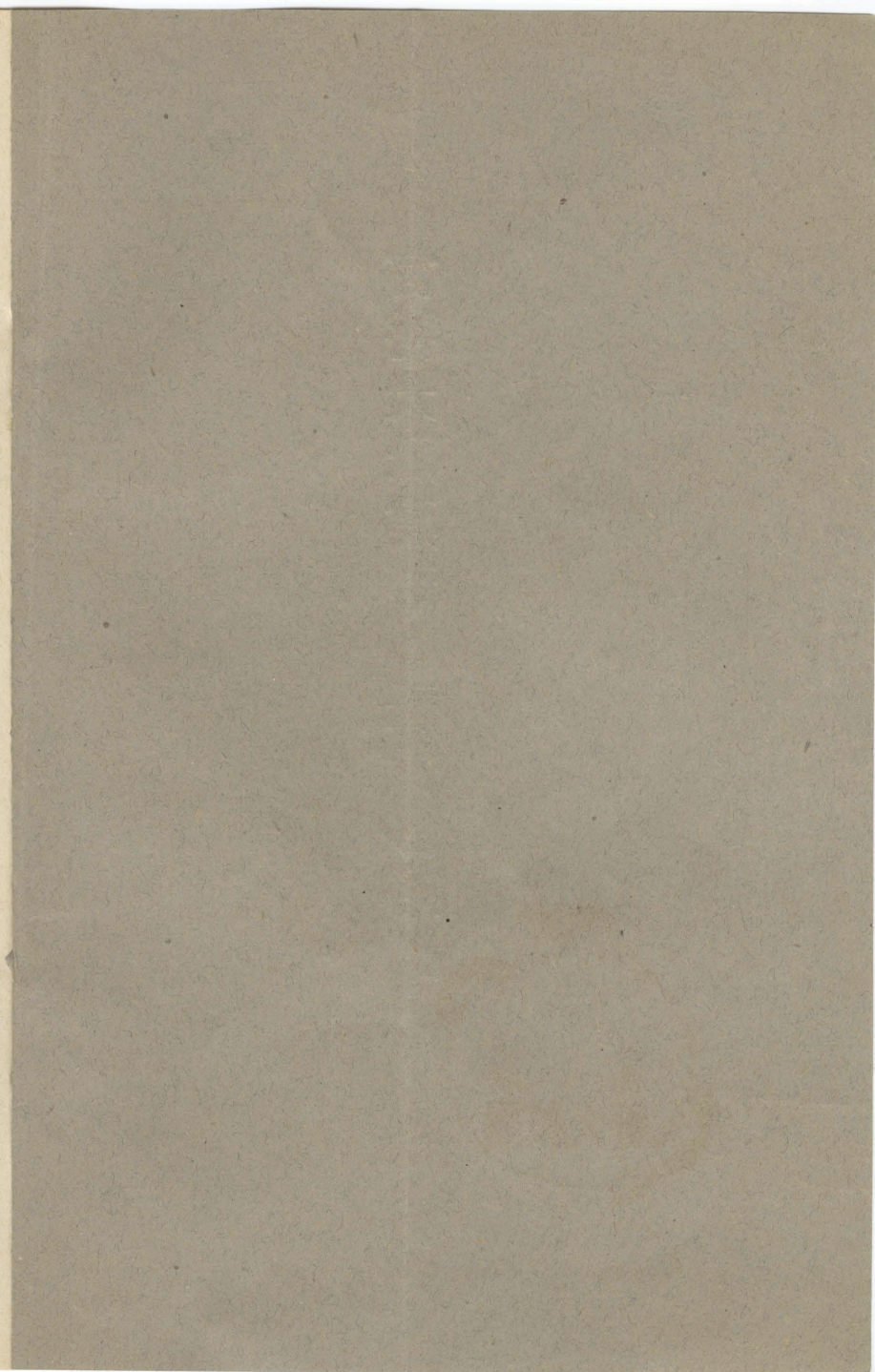
Oni Province

Brief History of Shrine.

12

官幣大社建部神社緣由略記





建部神社縁由略記

官幣大社建部神社

近江國栗太郡瀬田村大字神領鎮座

本宮

祭神

ひまじりだけらののみこと
日本武尊

71-130

御祭神は人皇十二代景行天皇の皇子に座し、初め御名を小碓こすゐ尊のみことまたは日本童男やまとこなむらと稱す、天資英邁幼にして雄略の御氣色あり、壯に及びて容貌魁偉身の長一丈、力能く鼎を扛かげ給ひ、猛きこと雷電の如く、向ふ所前むものなく、攻る所必ず勝ち給ふの懐あり、御年十六にまじりて西熊襲くまそを伐ち給ふ、賊魁其御威力を恐かしみて尊號を献りしは此時なり、尋いで東蝦夷あづまを平定

して、天下を經綸し給ひし御功績は、實に我國史の精華にして、世人の普く知る所なり、されば御父天皇の御鍾愛斜ならず其東征し給ふに當りて勅したまはく、朕察汝爲人也、形則我子、實則神人中略亦是天下則汝天下也、是位則汝位也、云々と惜ひ哉凱旋の途膽吹山の瘴毒に觸れて終に崩御ましくかは天皇太く歎かせたまはく何禍兮何禍、兮倏亡我子、自今以後、與誰人經綸鴻業耶、中略因欲錄其功名即定武部也、又作建部是歲天皇踐祚四十二年焉、と日本紀に見ゆたり、

是より三年を経て、景行天皇四十六年四月庚午日、今を去るこ
と二千八百年
御子建部稻依別王、神勅によりて淡海國神前郡今作たけべの建部郷干

草嶽くさかたけに神宮を創建し、御父尊ちみことの神靈を奉齋して、建部大神たけべのおほかみと

崇稱し給ふ、是當社の草創にして神前かむさきの郡名も茲に出づ、又

建部公犬上朝臣二族の始祖に座せり、

天武天皇白鳳四年四月庚午、神孫建部連安磨勅を奉下て同國

瀨田郷大野山の巔に、大宮所を相して遷祀し、孝謙天皇天平

勝寶七年三月、建部公伊賀磨勅を奉下て、再び大野山の麓廣

庭に遷座す、是今の社地なり、

清和天皇貞觀二年三月辛亥朔、官社に列せられ、(延喜式)後三

條天皇延久四年六月、正一位勳一等の極位を授け、神領を増

加し給ひし等、歷朝の御崇敬厚く、又建久元年十一月、源賴朝

報賽の爲め參拜して、瀨田郷三百封戸を寄附し、貞應二年鎌倉將軍賴經本宮及び攝社末社を造營し、太刀神馬を奉納せられし等、古來武將として武將の尊崇最も深かりき、

明治十八年四月廿二日官幣中社に列し、同三十二年七月十七日官幣大社に陞格せらる

相殿

あめのかかるたまのみこと
天明玉命

此大神は天照大神の別號に座せり、本宮御祭神東征の途、伊勢神宮に參拜し給ひし時、御姨倭姫命ふはやまとひめのみこと御物の神劍と燧袋とを授け給ひしが、相摸國燒津にて、賊等四方より火を放ちしかば、神劍にて草を薙ぎ、燧にて向火を打出して燒き退け給へり、

此御偉蹟に因りて燧金を製りて、鎮火祭の御守として頒授す

其草薙の劍は熱田神社に座せり、

權殿

大已貴命

此大神は孝謙天皇天平勝寶七年三月、建部公伊賀麿に勅して

建部の權殿に齋き祀らしめて、近江國の一宮と定め給ふ、此時

りて、社頭に杉三株生出て、一夜に成長せしかば、神瑞ありとし、午日を以て神祭を行ひ、三葉葵の蔓を氏人等の冠巾子に掛しとぞ、是より三本杉三葉葵を神の徽章とをせしと云ふ、

攝社

聖宮神社

祭神

大足彦忍代別尊

本宮御祭神の御父神景行天皇に座す、白鳳四年四月鎮座、明治三

十二年十二月六日攝社公稱、

攝社

おほせむすひののみやの
大政所宮神社

祭神

ばりまのいぢひのおはいらつめの
播磨稻日大郎姬命

本宮御祭神の御母神景行皇后に座す、白鳳四年四月鎮座、明治三

十二年十二月六日攝社公稱

攝社

藤宮神社

祭神

ふたぢひめの
布多遲比賣命

本宮御祭神の御妃神に座す、白鳳四年四月鎮座、明治三十

二年十二月六日攝社公稱、

攝社

若宮神社

祭神

たけべのいさをりわけのみこと
建部稻依別王命

本宮御祭神の御子神に座す、白鳳四年四月鎮座、明治三十二年十二月六日攝社公稱、

末社

行事神社

祭神

きびのみ
吉備臣武彦

おほいほのむらぢ
大伴連武日

此社は、日本紀に命_ミ吉備武彦、與_ミ大伴武日連、令_レ從_ニ日本武尊、とありて、本宮御祭神東征の武將に座す、白鳳四年四月鎮座、

末社

弓取神社

末社

弟彦公

末社 箭取神社

祭神

石占横立

尾張田子之稻置

乳近之稻置

此兩社は白鳳四年四月鎮座にして、日本紀に日本武尊曰、吾得善射者欲興行或者啓之曰美濃國有善射者曰弟彦公於是日本武尊喚弟彦公弟彦公便率石占横立及尾張田子之稻置乳近之稻置而來云々あるこれにして本宮御祭神の功臣に座す今に此子孫弓座と稱して相傳ふ

毎年二月四日弓始の神事を奉仕す、

末社 藏人頭神社

祭神 七掬脛なつかはざね

此社は、古事記に倭建命平國廻行之時、久米直之、祖名七掬脛、恒爲膳夫以從仕奉也、とあり、本宮御祭神の功臣に座す、白鳳四年四月鎮座、

別宮 毛知比神社村 近江國栗太郡下田上村大字里鎮座

祭神 日本武尊

保食神うけもちの

天平寶字元年三月神勅によりて、田上柚の郷に別宮を造り

翌二年三月甲午鎮齋す、郷人神供として鏡餅を献る、依て餅津の宮と云ふ、

若宮

社 新茂智神社

近江國栗太郡下田上村大字關津鎮座

祭神

稻依別王命

少彦名命すくもひこさの

天平寶字五年三月、田上五十師嶽の麓に鎮齋して、建部の若宮となす、新餅の宮と號す、

神境内

大野神社

祭神

草野姫命かやひめのみこと

此神は往古より、大野山を領有うしほさまゝとく、地主の神に座せり

此外に境内神社四社あり、茲に略す

由緒ある祭日

四月十五日 例祭 神輿渡御の古式

二月四日 護國祭 弓始の神事

六月十五日 挿秧祭 齋田植付の神事

八月七日 夏季祭 納涼の神事
供御の瀬神幸の古式

十月十二日 早穀祭 齋田拔穂の神事

十一月廿六日 鎮火祭 向火の古式

毎月十五日 月次祭
廿六日

境内大野神社例祭 四月一日 但前夜四至榊立の古式あり

攝末社例祭

四月廿六日

別宮
若宮

例祭

五月一日

幣饌供進指定

○沿革

當社は瀨田橋東に在りて、古來數く兵燹の災あり、承久の役東軍火を神域に放ちて、神寶神記悉く烏有に歸せり、應仁の亂山名氏の兵火に罹りて、十四年間再建せられず、文明十二年に至りて、後土御門天皇勅して御造營あらせらる、勢多肥後守中原兼昌奉行たり、されど明應七年九月廿一日の綸旨に江州勢田郷建部明神之事、年來甲乙人等寄事左右、神田等令勸落之間、神事有名無實、云々とあるが如く、群雄割據の

世神領をも併有せられて、漸く古の規模を失ふに至れり、慶
長以來は膳所城主より社領若干を寄進せられて、四時の祭祀
を奉仕せしなり

○

本宮境内坪數六千七百七拾九坪、別宮若宮の飛地境内を合し
て八千九百五拾四坪を有す

滋賀縣近江國栗太郡瀨田村大字神領

建部神社々務所

(換膳寫)



一頁 二 九 八 七 五 三 二 一

正行九七四二六九四

誤表

ましゝて
あまつひつぎをかざめむしや
 經二綸鴻業一耶
たけべのむらちやすまろ
 建部連安麿
 熱田神社
おほども
 大伴
 云々、
 之、祖
 數々

正

ましゝて
あまつひつぎをかざめむしや
 經二綸鴻業一耶
たけべのむらちやすまろ
 建部連安麿
 熱田神宮
おほども
 大伴
 云々ど
 之、祖
 數々

